

## マテリアリティ ～JR九州グループが常に考えるべきこと～

### ESGに対する考え方

近年、「ESG」や「SDGs」への関心が高まっていますが、これは、社会の持続可能性に貢献することが、企業自身の持続的成長につながるという考え方が受け入れられるようになった結果だと考えます。当社グループが「あるべき姿」として掲げる「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」は、まさにそのような考え方が基本となっています。

さらに、当社グループの従業員一人ひとりが常に立ち返るべき拠り所として大切にしてきた「誠実」「成長と進化」「地域を元気に」という3つの「おこない」は、ESGの取り組みと軌を一にするものであるといえます。

### ESG推進体制

2019年11月に、ESG経営を全社的課題と位置付け、ESGの各分野における取り組みを強化・推進するために必要な事項の審議機関として、社長を委員長とする「ESG戦略委員会」を設立しました。(P32の体制図参照)

また、「JR九州グループ社長会」では社長自らがJR九州グループ社長に対してESGに関する講義を行うなど、当社グループ全体でESGを推進する機運が高まっています。

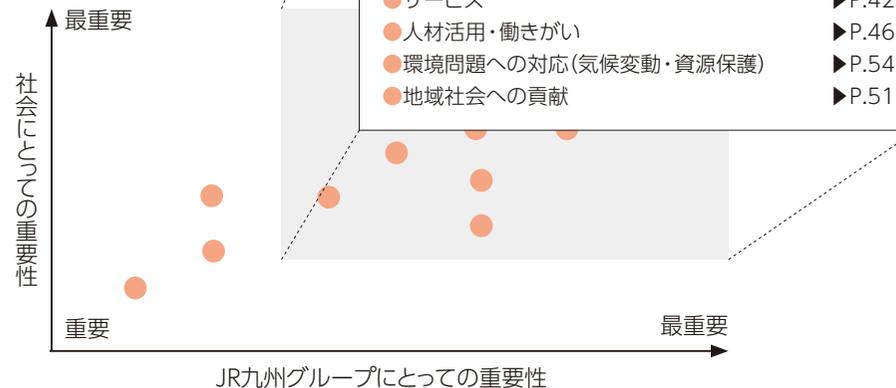
### マテリアリティ(重要課題)の選定

「JR九州グループ中期経営計画2019-2021」では、重点的に取り組むべきESGのテーマを「重点テーマ」として設定しました。

今回、ESGの「重点テーマ」についてあらためて経営陣5名によるディスカッションを行い、マテリアリティを「JR九州グループが常に考えるべきこと」と定義し、「社会にとっての重要性」と「JR九州グループにとっての重要性」の観点で議論しました。自社の強みを活かし、事業活動を通じて優先的に取り組むべき課題を特定し、最終的に「ESG戦略委員会」において審議、承認しました。



### JR九州グループが常に考えるべきこと (マテリアリティ・マップ)



▶ 今後も、ステークホルダーの皆さまとの対話を通じて、マテリアリティ(重要課題)について議論を深めます。

### 経営陣によるディスカッションでの主な意見

代表取締役社長執行役員、取締役副社長執行役員、取締役専務執行役員、取締役常務執行役員5名が集まり、ESGの「重点テーマ」について、重要度を議論しました。



- 社会にとって重要でも私たちが重要だと考えていないなどのアンマッチはないかという視点が必要だ。
- 鉄道事業は環境にやさしい事業であり、電気使用量を低減していることなどをもっとPRする必要がある。
- 気候変動による自然災害の発生により鉄道が運行できなくなれば、利用者が減り、沿線施設の交流人口が減少する。その結果、地域の競争力が低下するなどの悪循環が発生することが問題だ。